

タカラは足元にあり！

金丸 弘美著

地方の時代と言われながら、なかなかその状況を知ることが難しい。いったい現在の地方はどうなっているのか。

そんな思いに見事に応えてくれるのが本書。地方に住む人々の熱心な取り組み、積極的な創意工夫を知ると、まさに本書のタイトルにあるように、「タカラ」は足元にあったというのが実感である。

本書の特色は、単なる地方経済の展望や提案ではなく、著者が実際に現場におもむき、その取り組みを紹介し、時には共に新しい商品や食材を作り上げ、それを流通ルートに乗せ産業として成り立つことを目指していることにある。

まず著者は食総合プロデューサーとして地方の特産物や地場産業で具体的な成果を上げている現場の取り組みと人々を紹介する。

たとえば、害獣として農家を悩ませている鹿の肉などを逆に利用することを始

地方経済活性化のヒント提示

めた三重県の「みえのジビエ」や福井県の伝統工芸の和紙や包丁、村落が一体化した取り組み、直販とネット販売の戦略で成功した地域などの例がある。

また、保守的な組織とされるJAでも革新的な直売所を造った愛媛県今治市のケース、パン食に押され気味なコメをいかに新たな付加価値を与えて売るかに取り組んだ兵庫県豊岡市、大学との連携でブランド米を作った例など、枚挙にいとまがないほど、具体的に示唆に富む事例が紹介されている。

そのほか、どうしてネット通販がうまくいかないのか、つくればつくほど赤字になるスパイラルから脱却する方法は何か、などの新しい地方の豊かさを生み出す方策を提示する。

地方の人々の生き生きとした話を読んでいくうちに、こちらまでいつのまにか元気になっていく気になるほど。

北は北海道から南は沖縄まで全国100カ所以上の現場をわたりあるき、その地域だけに根付く文化を再発見し、各地の元気をネットワークするスペシャリストならではの1冊である。

合同出版
本体1600円＋税

